

年度	2023
講義名	日本語学概論 I [1/2]
担当教員	三好 伸芳
授業形態	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、日本語学において扱われる基礎的な概念を参照しながら、日本語がどのような特徴を持つ言語で、どのような研究方法があるのかといった点について学ぶ。言語の普遍的な性質と世界における日本語の位置づけについて説明したうえで、言語学で問題にされる諸分野を取り上げ、言語および日本語を分析的に捉える感覚を身につける。
------	---

知識・専門性の到達目標	日本語の成り立ちや日本語の特徴の概要を理解している。【教養・基礎力】
-------------	------------------------------------

関心・態度・人格の到達目標	
---------------	--

思考・判断の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身に付ける。【ことばの力】
------------	---

実践的スキル・表現の到達目標	日本語の特徴を理解し説明することが出来る。【表現力】
----------------	----------------------------

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、日常的に接している日本語を言語学的な観点から問い直し、日本語の特徴および日本語学における問題意識を取り上げる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	---

授業形態	対象
A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	—
B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	—
C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○
D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	—
E: グループワーク	—
F: 発表 (プレゼンテーション)	—
G: 実習、フィールドワーク	—
H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○
J: 講義のみ	○
K: その他	—

授業形態	対象
A: ノートPC必携	—
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
C: レポート課題等のオンライン提出	○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power), Google Classroom, Teams等)	○
E: オンラインメディアの活用 (e-Learning, edX, Coursera, JMOOC等のOpen Educational Resources)	—
F: Zoom, Google Meet等のミーティングツールの活用	—
G: その他	—

予習 (事前学修)	各授業 [120]分 授業テーマについて自分なりに調べてくる。
-----------	-----------------------------------

復習 (事後学修)	各授業 [120]分 毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
-----------	------------------------------------

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出 (レポート)	毎回の提出課題	80 %
小テスト		0 %
試験		0 %
実習・学外学修活動		0 %
その他	質疑、コメントペーパー等を通じての授業参加態度	20 %

授業回	内容
-----	----

授業計画

1.	第1回 言語学と日本語学 予習(120分):日本語学とはどのような学問かを自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
2.	第2回 言語の恣意性 予習(120分):「恣意性」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
3.	第3回 世界の中の日本語 予習(120分):日本語の類型論的特徴について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
4.	第4回 日本語の音声・音韻(1):単音と音素 予習(120分):「単音(または音素)」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
5.	第5回 日本語の音声・音韻(2):音節と拍 予習(120分):「音節(または拍)」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
6.	第6回 日本語の音声・音韻(3):アクセント 予習(120分):日本語のアクセントについて自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
7.	第7回 形態論:活用体系と揺れ 予習(120分):日本語の活用について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
8.	第8回 統語論:主語の性質 予習(120分):主語について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
9.	第9回 意味論:文と名詞の意味 予習(120分):真理条件的意味について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
10.	第10回 語用論:発話の含意 予習(120分):語用論的含意について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
11.	第11回 文法論:文法範疇 予習(120分):文法範疇(文法カテゴリー)について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 語彙論:語彙の体系性 予習(120分):語彙の類義関係や対義関係について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
13.	第13回 文字論:漢字と仮名 予習(120分):日本語の文字について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
14.	第14回 社会言語学:方言と言語 予習(120分):方言と外国語の違いについて自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項

--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	新ここからはじまる日本語学
		著者	伊坂淳一
		出版社	ひつじ書房
		ISBN(13桁)	978-4894767102
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		

	学生への連絡事項	
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
参考URL	1. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	2. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	3. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	4. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	5. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別	
		対象
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的		

備考	

年度	2023
講義名	日本語学概論 I [2/2]
担当教員	三好 伸芳
授業形態	講義
授業の実施形態	対面 / Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、日本語学において扱われる基礎的な概念を参照しながら、日本語がどのような特徴を持つ言語で、どのような研究方法があるのかといった点について学ぶ。言語の普遍的な性質と世界における日本語の位置づけについて説明したうえで、言語学で問題にされる諸分野を取り上げ、言語および日本語を分析的に捉える感覚を身につける。
------	---

知識・専門性の到達目標	日本語の成り立ちや日本語の特徴の概要を理解している。【教養・基礎力】
-------------	------------------------------------

関心・態度・人格の到達目標	
---------------	--

思考・判断の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身に付ける。【ことばの力】
------------	---

実践的スキル・表現の到達目標	日本語の特徴を理解し説明することが出来る。【表現力】
----------------	----------------------------

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、日常的に接している日本語を言語学的な観点から問い直し、日本語の特徴および日本語学における問題意識を取り上げる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	---

授業における「アクティブな知」の要素	授業形態	対象
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	—
	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	—
	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○
	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	—
	E: グループワーク	—
	F: 発表 (プレゼンテーション)	—
	G: 実習、フィールドワーク	—
	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○
	J: 講義のみ	○
	K: その他	—

授業における「ICTの活用」について	授業形態	対象
	A: ノートPC必携	—
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
	C: レポート課題等のオンライン提出	○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power), Google Classroom, Teams 等)	○
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning, edX, Coursera, JMOOC 等の Open Educational Resources)	—
	F: Zoom, Google Meet 等のミーティングツールの活用	—
	G: その他	—

予習 (事前学修)	各授業 [120] 分 授業テーマについて自分なりに調べてくる。
-----------	------------------------------------

復習 (事後学修)	各授業 [120] 分 毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
-----------	-------------------------------------

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出 (レポート)	毎回の提出課題	80 %
	小テスト		0 %
	試験		0 %
	実習・学外学修活動		0 %
	その他	質疑、コメントペーパー等を通じての授業参加態度	20 %

授業回	内容
-----	----

授業計画

1.	第1回 言語学と日本語学 予習(120分):日本語学とはどのような学問かを自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
2.	第2回 言語の恣意性 予習(120分):「恣意性」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
3.	第3回 世界の中の日本語 予習(120分):日本語の類型論的特徴について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
4.	第4回 日本語の音声・音韻(1):単音と音素 予習(120分):「単音(または音素)」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
5.	第5回 日本語の音声・音韻(2):音節と拍 予習(120分):「音節(または拍)」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
6.	第6回 日本語の音声・音韻(3):アクセント 予習(120分):日本語のアクセントについて自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
7.	第7回 形態論:活用体系と揺れ 予習(120分):日本語の活用について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
8.	第8回 統語論:主語の性質 予習(120分):主語について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
9.	第9回 意味論:文と名詞の意味 予習(120分):真理条件的意味について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
10.	第10回 語用論:発話の含意 予習(120分):語用論的含意について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
11.	第11回 文法論:文法範疇 予習(120分):文法範疇(文法カテゴリー)について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 語彙論:語彙の体系性 予習(120分):語彙の類義関係や対義関係について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
13.	第13回 文字論:漢字と仮名 予習(120分):日本語の文字について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
14.	第14回 社会言語学:方言と言語 予習(120分):方言と外国語の違いについて自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項

--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	新ここからはじまる日本語学
		著者	伊坂淳一
		出版社	ひつじ書房
		ISBN(13桁)	978-4894767102
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		

	学生への連絡事項	
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
参考URL	1. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	2. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	3. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	4. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	5. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別	
		対象
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的		

備考	

年度	2023
講義名	日本文学研究Ⅷ(近代・現代の文学と人生)
担当教員	掛野 剛史
授業形態	講義
授業の実施形態	対面/Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	近代作家の小説作品を自筆資料(原稿・書簡・メモ等)から考察する道筋を探す。 「蜘蛛の糸」や「羅生門」など、比較的知られた小説を作家の原稿から受講者自身が実際に読んでいき、そこから作品の新しい読みの可能性を見出していく。
------	--

知識・専門性の到達目標	近代・現代の文学者とその時代を知り、作品読解を通じて他者の人生を学び、自己の人生を幅広い視野からみつめなおすことができるようになる。【教養・専門能力】
関心・態度・人格の到達目標	自身の読解と他人の読解の相違点や共通点を知ることにより相対的認識力を養い、そのうえで主体性の獲得を目指すようになる。【自己認識力・他者理解力・主体性・人格形成】
思考・判断の到達目標	
実践的スキル・表現の到達目標	

「響学スパイラル」取り組み方法	<p>【問う】自筆資料を読み、その特徴やその問題点などを考える。</p> <p>【考動する】自筆資料について考えた問題点を、自らの考察と対照させながら授業を聞き、さらに考察を深める。</p> <p>【カタチにする】毎回の授業内容について、授業後に文章にまとめて提出する。</p> <p>【見つめ直す】前回の内容について、授業内での整理を聞きながら、自らの考察を振り返る。</p>
-----------------	---

授業における「アクティブな知」の要素	授業形態		対象
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		-
	B: 課題解決型学習(PBL)連携なし		-
	C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		-
	D: 討議(ディスカッション、ディベート等)		-
	E: グループワーク		○
	F: 発表(プレゼンテーション)		-
	G: 実習、フィールドワーク		○
	H: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		○
	I: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		-
	J: 講義のみ		-
	K: その他		-

授業における「ICTの活用」について	授業形態		対象
	A: ノートPC必携		-
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
	C: レポート課題等のオンライン提出		○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)		○
	E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)		-
	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		-
	G: その他		-

予習(事前学修)	各授業	授業で取り上げる作品や資料について読んでおき、関連資料について調べておく。
	[平均40]分	

復習(事後学修)	各授業	授業内容を整理し、レポートに備える。
	[平均20]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出(レポート)		50%
	小テスト		0%
	試験		0%
	実習・学外学修活動		0%
	その他	授業内での課題	50%

授業回	内容
-----	----

授業計画	1.	宮沢賢治「雨ニモ負ケズ」ノートについて 予習(120分)＝関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	2.	夏目漱石「坊つちやん」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	3.	芥川龍之介「続西方の人」或旧友へ送る手記」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	4.	芥川龍之介「続西方の人」或旧友へ送る手記」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	5.	芥川龍之介「羅生門」草稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	6.	芥川龍之介「羅生門」草稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	7.	芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	8.	芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	9.	芥川龍之介「邪宗門」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	10.	芥川龍之介「邪宗門」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	11.	夏目漱石「道草」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	12.	夏目漱石「道草」草稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	13.	横光利一「寝園」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
	14.	横光利一「悪魔」「時間」原稿について 予習(120分)＝前回までの授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく 復習(120分)＝授業内容を振り返り、関連資料を図書館等で調査し、読んでおく
留意事項	受講者数にもよるが、受講者が主体的に動き考える、参加型演習形式の授業にする予定。したがって積極的な授業参加の姿勢が求められる。そのつもりで受講してほしい。 ただ受講者数が多ければ、講義の比重が高くなることをご了承ください。	

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	小説は書き直される—創作のバックヤード
		著者	日本近代文学館
		出版社	秀明大学出版会 ISBN(13桁) 9784915855344
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	水上勉の時代
		著者	大木志門・掛野剛史・高橋孝次編
		出版社	田畑書店 ISBN(13桁) 9784803803600
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	近代文学 草稿・原稿研究事典
		著者	日本近代文学館
		出版社	八木書店 ISBN(13桁) 9784840696906
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		

	学生への連絡事項	
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
参考URL	webサイト名 URL	
	1. 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名 URL	
	2. 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名 URL	
	3. 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名 URL	
	4. 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	webサイト名 URL	
	5. 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別	
	対象	
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	-
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	-
	授業内容との関連性	
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	-

備考	

年度	2023
講義名	日本語学特講(古代の日本語)
担当教員	三好 伸芳
授業形態	講義
授業の実施形態	対面/Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、古代日本語の変遷を辿りながら、歴史的日本語がどのような体系を有していたのかという点について学ぶ。古代日本語には、現代日本語において失われた独自の特徴が観察され、歴史的に同一の日本語であっても直感的な理解が困難である。現代日本語との対照言語学的観点に十分留意しつつ、どのような動機で言語変化が生じたのかを受講者自身で説明できるようになることを目指す。
------	---

知識・専門性の到達目標	日本語の使用者として知っておかなければならない日本語に関する知識を習得し、日本の言語文化の特徴を理解している。【教養・基礎学力】
-------------	--

関心・態度・人格の到達目標	
---------------	--

思考・判断の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身に付ける。【ことばの力】
------------	---

実践的スキル・表現の到達目標	日本語の特徴を適切なことばで説明することができる。【表現力】
----------------	--------------------------------

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、古代日本語の変遷を辿ることで、日常的に接する現代日本語からは十分に理解できない日本語の側面や、歴史的日本語に見られる独自の言語的特徴について論じる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	--

授業形態	対象
A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	—
B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	—
C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○
D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	—
E: グループワーク	—
F: 発表 (プレゼンテーション)	—
G: 実習、フィールドワーク	—
H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○
J: 講義のみ	○
K: その他	—

授業形態	対象
A: ノートPC必携	—
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
C: レポート課題等のオンライン提出	○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power), Google Classroom, Teams等)	○
E: オンラインメディアの活用 (e-Learning, edX, Coursera, JMOOC等のOpen Educational Resources)	—
F: Zoom, Google Meet等のミーティングツールの活用	—
G: その他	—

予習 (事前学修)	各授業 [120]分 授業テーマについて自分なりに調べてくる。
-----------	---------------------------------

復習 (事後学修)	各授業 [120]分 毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
-----------	----------------------------------

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出 (レポート)	毎回の提出課題	80%
小テスト		0%
試験		0%
実習・学外学修活動		0%
その他	質疑、コメントペーパー等を通じての授業参加態度	20%

授業回	内容
-----	----

授業計画

1.	第1回 日本語史における古代語 予習(120分):「古代語」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
2.	第2回 上代の音韻・表記 予習(120分):「上代特殊仮名遣い」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
3.	第3回 上代の語彙 予習(120分):「歌語」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
4.	第4回 上代の文法 予習(120分):「ミ語法/ク語法」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
5.	第5回 中古の音韻・表記 予習(120分):「音便」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
6.	第6回 中古の語彙 予習(120分):「和文語/漢文訓読語」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
7.	第7回 中古の文法 予習(120分):「係り結び」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
8.	第8回 中世前期の音韻・表記 予習(120分):「入声音」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
9.	第9回 中世前期の語彙 予習(120分):「武者詞(むしゃことば)」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
10.	第10回 中世前期の文法 予習(120分):「連体形終止」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
11.	第11回 ハ行音と清濁の歴史 予習(120分):「濁音」およびその表記について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 音象徴語の歴史 予習(120分):「音象徴語」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
13.	第13回 準体句の歴史 予習(120分):「準体句」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
14.	第14回 古代語から近代語へ 予習(120分):それまでの授業内容を振り返っておく。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項

--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	新訂 日本語の歴史
		著者	近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己
		出版社	放送大学教育振興会 ISBN(13桁) 978-4595305474
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		

	学生への連絡事項	
<p>その他 (配布教材等により購入不要)</p>	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
<p>参考URL</p>	1. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	2. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	3. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	4. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	5. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
<p>実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)</p>	実践的教育を行う授業科目の種別	
	対象	
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	

備考	

年度	2023
講義名	日本語学研究(近代の日本語)
担当教員	三好 伸芳
授業形態	講義
授業の実施形態	対面/Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	この授業では、近代日本語の変遷を辿りながら、歴史的日本語がどのような体系を有していたのかという点について学ぶ。近代日本語は、現代日本語と地続きのものであり、現在の日本語の体系が形成された過程を知るうえで重要である。現代日本語との対照言語学的観点にも十分留意しつつ、どのような動機で言語変化が生じたのかを受講者自身で説明できるようになることを目指す。
------	--

知識・専門性の到達目標	日本語の使用者として知っておかなければならない日本語に関する知識を習得し、日本の言語文化の特徴を理解している。【教養・基礎学力】
-------------	--

関心・態度・人格の到達目標	
---------------	--

思考・判断の到達目標	日本語学を学ぶことにより、日本の歴史や社会と日本語との関係性を学び、言語文化のあり方を主体的に考えることができる思考力を身に付ける。【ことばの力】
------------	---

実践的スキル・表現の到達目標	日本語の特徴を適切なことばで説明することができる。【表現力】
----------------	--------------------------------

「響学スパイラル」取り組み方法	本科目では、近代日本語の変遷を辿ることで、日常的に接する現代日本語がどのような過程を経て形成されたのかという点について、歴史的日本語と現代日本語との直接的な繋がりを論じる。そのため、「問う」、「考動する」という「響学スパイラル」の学びを実践していくことになる。
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業形態	対象
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	—
B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	—	
C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	—	
E: グループワーク	—	
F: 発表 (プレゼンテーション)	—	
G: 実習、フィールドワーク	—	
H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○	
I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○	
J: 講義のみ	○	
K: その他	—	

授業における「ICTの活用」について	授業形態	対象
	A: ノートPC必携	—
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○	
C: レポート課題等のオンライン提出	○	
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power), Google Classroom, Teams等)	○	
E: オンラインメディアの活用 (e-Learning, edX, Coursera, JMOOC等のOpen Educational Resources)	—	
F: Zoom, Google Meet等のミーティングツールの活用	—	
G: その他	—	

予習 (事前学修)	各授業	授業テーマについて自分なりに調べてくる。
	[120]分	

復習 (事後学修)	各授業	毎回課される授業課題に取り組んで提出する。
	[120]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
		課題提出 (レポート)	毎回の提出課題
	小テスト		0 %
	試験		0 %
	実習・学外学修活動		0 %
	その他	質疑、コメントペーパー等を通じての授業参加態度	20 %

授業回	内容
-----	----

授業計画

1.	第1回 日本語史における近代語 予習(120分):「近代語」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
2.	第2回 中世後期の音韻・表記 予習(120分):「連声」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
3.	第3回 中世後期の語彙 予習(120分):「女房詞(にようぼうことば)」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
4.	第4回 中世後期の文法 予習(120分):「可能動詞」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
5.	第5回 近世前期の音韻・表記 予習(120分):「四つ仮名」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
6.	第6回 近世前期の語彙 予習(120分):「廓詞(くるわことば)」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
7.	第7回 近世前期の文法 予習(120分):「二段活用の一段化」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
8.	第8回 近世後期の音韻・表記 予習(120分):「江戸訛り」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
9.	第9回 近世後期の語彙 予習(120分):「武家詞(ぶげことば)」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
10.	第10回 近世後期の文法 予習(120分):「特別ラ行四段活用」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
11.	第11回 近代の音韻・表記 予習(120分):「綴り字発音」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
12.	第12回 近代の語彙 予習(120分):「新漢語」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
13.	第13回 近代の文法 予習(120分):「普通文」について自分なりに調べてくる。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。
14.	第14回 近代語から現代語へ 予習(120分):それまでの授業内容を振り返っておく。 復習(120分):授業課題に取り組んで提出する。

留意事項

--

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	新訂 日本語の歴史
		著者	近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己
		出版社	放送大学教育振興会 ISBN(13桁) 978-4595305474
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	参考図書に関する履修		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		

	学生への連絡事項	
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	
参考URL	1. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	2. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	3. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	4. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
	5. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項	
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別	
	対象	
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	
	授業内容との関連性	
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	

備考	

年度	2023
講義名	日本の演劇(古典芸能)
担当教員	三浦 裕子
授業形態	講義
授業の実施形態	対面/Face-to-Face
使用言語	日本語

授業概要	<p>能楽(能・狂言)は室町時代(中世)に芸術的基礎を固めた古典芸能であり、人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊(くみおどり)は江戸時代(近世)に成立した古典芸能である。</p> <p>この四つのジャンルに共通していることは、音楽・舞踊・演劇が不可分に融合している総合芸術である点である。</p> <p>また、能楽は人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊に多大な影響を与え、人形浄瑠璃文楽と歌舞伎は同じ作品を共有しているなど、相互に深い関連を持っているとも言える。</p> <p>本講義では以下の四つの視点から日本の古典芸能へのアプローチを試みる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 古典芸能の歴史的な流れを概観し、能楽・人形浄瑠璃・歌舞伎・組踊などの古典芸能の特徴を学ぶ。 2 蛇に変身した女性が男性を追いかけるといったモチーフが、古代の歴史書『古事記』から現代のゲームまで、広く日本の芸能・文学などに見られる。このモチーフが能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊などの古典芸能にどう描かれているかを、それぞれの作品の講読と鑑賞を通じて理解する。 3 以上を踏まえて、総合的視野から日本の古典芸能を理解する。 4 古典芸能の文化財としての価値を理解する。その方法として、古典芸能を未来に継承していく意味を検討し、自分自身の考えを深めていく。
------	--

知識・専門性の到達目標	日本の古典芸能(能・狂言・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊など)についての基本的知識を備えており、その特徴を把握している。【教養・基礎学力】
関心・態度・人格の到達目標	日本の古典芸能の諸作品を、様々な文学・ジャンル・時代・地域・文化との関連から読み解き、分析することができる。【自己認識力・他者理解力】
思考・判断の到達目標	作品についての的確に分析する方法の概要を理解している。【論理的思考力・判断力】
実践的スキル・表現の到達目標	日本の古典芸能について、自分の考えを発表し、議論する方法の概要を理解している。【表現力】

「響学スパイラル」取り組み方法	<p>能・狂言をはじめ日本の古典芸能が描く世界を自分ごととしてとらえる感性を磨く。また、固定観念を超えて、日本の古典芸能の美を理解する姿勢を身につける。そのために、受講する学生同士でのディスカッションを行い、他者を尊重することに努める。</p>
-----------------	--

授業形態	対象
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
B: 課題解決型学習(PBL)連携なし	○
C: 反転授業(知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
D: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○
E: グループワーク	○
F: 発表(プレゼンテーション)	○
G: 実習、フィールドワーク	-
H: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	-
I: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○
J: 講義のみ	-
K: その他	-

授業形態	対象
A: ノートPC必携	○
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
C: レポート課題等のオンライン提出	○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用(学修支援システム(Course Power)、Google Classroom、Teams等)	○
E: オンラインメディアの活用(e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	-
F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	○
G: その他	○

予習(事前学修)	<p>各授業 [平均120]分</p> <p>HPの閲覧、辞書類の講読などを通じて、日本の古典芸能の基礎知識や特徴を調べ、ノートに要約する。</p>
----------	--

復習(事後学修)	<p>各授業 [平均120]分</p> <p>授業の内容を復習し、ノートを整理しておくこと。</p>
----------	--

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出(レポート)	授業時に適宜、課す。興味をもって課題に取り組む姿勢と授業の理解度を確認する	20%
小テスト		0%
試験	授業の理解度を確認する	50%
実習・学外学修活動		0%
その他	ディスカッションなどにおける積極性と授業の集中度	30%

授業計画

授業回	内容
1.	日本の古典芸能の概観 予習: 国立劇場・文化庁のHPを閲覧し、日本の古典芸能についての予備知識を得る 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
2.	日本の四大古典芸能である能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊の特徴に関する考察 予習: 国立劇場・文化庁のHPを閲覧し、疑問点をまとめておく 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
3.	道成寺劇のモチーフの広がりを概観する 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
4.	『今昔物語集』など能(道成寺)の本説(典拠)の講読(1) 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
5.	『今昔物語集』など能(道成寺)の本説(典拠)の講読(2) 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
6.	能(道成寺)の講読と鑑賞(1) 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
7.	能(道成寺)の講読と鑑賞(2) 予習: 能(道成寺)の演技を考える 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める
8.	能(道成寺)の講読と鑑賞(3) 予習: 能(道成寺)の演出を考える 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポートに取り上げるテーマを考える
9.	能(道成寺)と『今昔物語集』との比較検討 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポート作成のための調査を行う
10.	能(道成寺)と絵巻『道成寺縁起』との比較検討 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポート作成のための調査を行う
11.	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊に見る(道成寺)関係の諸作品の講読と鑑賞(1) 予習: 国立劇場・文化庁のHPを閲覧するなどして、諸芸能の特徴を理解する 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める レポートを作成する
12.	人形浄瑠璃文楽・歌舞伎・組踊に見る(道成寺)関係の諸作品の講読と鑑賞(2) 予習: 配布資料を読む 復習: レポートを作成する
13.	壬生狂言・近代能楽集(三島由紀夫作の戯曲集)・ゲーム・ボカロ曲に見る(道成寺)関係の諸作品の講読と鑑賞 予習: 配布資料を読む 復習: レポートを作成する
14.	古典芸能の文化的価値を考える—授業の振り返りを兼ねて 予習: 配布資料を読む 復習: 授業時に取ったノートを整理し、理解度を高める

留意事項	<p>授業時は静粛を保つこと。</p> <p>質問は大歓迎である。</p> <p>出席が2/3に達していない場合は評価の対象としない。</p>
------	---

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	対訳で楽しむ 道成寺
		著者	三宅晶子
		出版社	檜書店 ISBN(13桁) 4-8279-1014-6
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		

参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	能・狂言
		著者	三浦裕子
		出版社	日本文芸社 ISBN(13桁) 978-4-537-
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	4.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		書籍名	

	<table border="1"> <tr> <td>著者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>ISBN(13桁)</td> </tr> <tr> <td>5. 参考図書に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> </table>	著者		出版社	ISBN(13桁)	5. 参考図書に関する履修学生への連絡事項																				
	著者																									
出版社	ISBN(13桁)																									
5. 参考図書に関する履修学生への連絡事項																										
<p>その他 (配布教材等により購入不要)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>配布教材等に関する履修学生への連絡事項</td> <td></td> </tr> </table>	1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項											
1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項																									
2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項																									
3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項																									
4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項																									
5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項																									
<p>参考URL</p>	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">1.</td> <td>webサイト名</td> <td>国立劇場</td> </tr> <tr> <td>URL</td> <td>www.ntj.jac.go.jp</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2.</td> <td>webサイト名</td> <td>文化庁</td> </tr> <tr> <td>URL</td> <td>www.bunka.go.jp</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3.</td> <td>webサイト名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>URL</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4.</td> <td>webサイト名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>URL</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5.</td> <td>webサイト名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>URL</td> <td></td> </tr> </table>	1.	webサイト名	国立劇場	URL	www.ntj.jac.go.jp	2.	webサイト名	文化庁	URL	www.bunka.go.jp	3.	webサイト名		URL		4.	webサイト名		URL		5.	webサイト名		URL	
1.	webサイト名		国立劇場																							
	URL	www.ntj.jac.go.jp																								
2.	webサイト名	文化庁																								
	URL	www.bunka.go.jp																								
3.	webサイト名																									
	URL																									
4.	webサイト名																									
	URL																									
5.	webサイト名																									
	URL																									
<p>実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実践的教育を行う授業科目の種別</th> <th>対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>授業内容との関連性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>授業内容との関連性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	実践的教育を行う授業科目の種別	対象	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	-	授業内容との関連性		b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	-	授業内容との関連性		c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	-													
実践的教育を行う授業科目の種別	対象																									
a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)	-																									
授業内容との関連性																										
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等	-																									
授業内容との関連性																										
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的	-																									

備考	<p>必要に応じて資料を配布する。</p> <p>鑑賞にふさわしい古典芸能の公演を紹介するので、なるべく実際の舞台を見るよう努めること。それが難しい場合は動画を視聴すること。</p> <p>能楽資料センター(武蔵野キャンパス1号館3階。開室、月～木)は能・狂言をはじめ日本の古典芸能に関する資料が充実している研究所である。ここを活用して古典芸能の理解度を高めること。</p>

年度	2023
講義名	リハビリテーション論
担当教員	志田 航平
授業形態	講義
授業の実施形態	対面（オンライン併用。対面実施回が半数以上）／Face-to-Face (combined with Online: 50% or more of the classes are Face-to-Face)
使用言語	日本語

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 医療職と連携して仕事をするために必要な知識として、リハビリテーションに関する体系、病期別のリハビリテーション、各疾患におけるリハビリテーションの役割について理解する。 リハビリテーションに関わる専門職種の役割と連携方法、病院から施設、地域における医療と福祉の連携方法などについて実際の事例を交えながら概説する。 具体的な事例などを活用して、実際のリハビリテーションについて理解する。
------	---

知識・専門性の到達目標	リハビリテーションに関する知識やその役割を理解し、ソーシャルワーカーに必要な医療と福祉の連携について他者に説明できる。【教養・基礎学力】
-------------	--

関心・態度・人格の到達目標	
---------------	--

思考・判断の到達目標	
------------	--

実践的スキル・表現の到達目標	
----------------	--

「響学スパイラル」取り組み方法	
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業形態	対象
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	-
	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	○
	E: グループワーク	-
	F: 発表 (プレゼンテーション)	-
	G: 実習、フィールドワーク	-
	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	-
	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-
	J: 講義のみ	○
	K: その他	-

授業における「ICTの活用」について	授業形態	対象
	A: ノートPC必修	-
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	-
	C: レポート課題等のオンライン提出	-
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power)、Google Classroom、Teams等)	-
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning、edX、Coursera、JMOOC等のOpen Educational Resources)	-
	F: Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用	-
	G: その他	-

予習 (事前学修)	<table border="1"> <tr> <th>各授業</th> <td>各授業回の内容について事前に調べる</td> </tr> <tr> <td>[平均10]分</td> <td></td> </tr> </table>	各授業	各授業回の内容について事前に調べる	[平均10]分	
各授業	各授業回の内容について事前に調べる				
[平均10]分					

復習 (事後学修)	<table border="1"> <tr> <th>各授業</th> <td>配布資料やスライド、動画の内容をもとに復習をする</td> </tr> <tr> <td>[平均20]分</td> <td></td> </tr> </table>	各授業	配布資料やスライド、動画の内容をもとに復習をする	[平均20]分	
各授業	配布資料やスライド、動画の内容をもとに復習をする				
[平均20]分					

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出 (レポート)		0%
	小テスト		0%
	試験		100%
	実習・学外学修活動		0%
	その他		0%

授業回	内容
-----	----

授業計画	1.	リハビリテーションの概要:オリエンテーション、リハビリテーションとは、リハビリテーションの種類、医療と介護 *リハビリテーションの概念から具体的なリハビリテーションの種類、医療・介護制度についてお話しします 予習:リハビリテーションの概要について調べる 復習:配布資料をもとにリハビリテーションの概念や種類などを学習する
	2.	疾病と障害:障害の分類(ICIDHとICF)、障害の種類とその影響 *リハビリテーションに重要な障害分類と障害の種類についてお話をします 予習:ICIDHとICFについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに障害分類を学習する
	3.	リハビリテーションの分野:リハビリテーションに関わる各専門職種の役割、連携方法 *リハビリテーションに関わる職種の紹介 *チーム医療について概説します 予習:リハビリテーションに関わる職種について調べる 復習:配布資料と授業をもとにチーム医療について学習する
	4.	医学的リハビリテーション:評価の流れ、病期別のリハビリテーション *リハビリテーションのなかでも医学的リハビリテーションの流れや病期別のリハビリテーションについてお話をします 予習:医学的リハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに医学的リハビリテーションの実際を復習する
	5.	障害別リハビリテーション1:整形外科疾患(骨折・変形性関節症など)の特徴とリハビリテーション *代表的な整形外科疾患に対するリハビリテーションについてお話をします 予習:整形外科疾患のリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに代表的な整形外科疾患のリハビリテーションを復習する
	6.	障害別リハビリテーション2:中枢神経疾患(脳卒中など)の特徴とリハビリテーション *代表的な中枢神経疾患に対するリハビリテーションについてお話をします 予習:中枢神経疾患のリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに代表的な中枢神経疾患のリハビリテーションを復習する
	7.	障害別リハビリテーション3:内部機能障害(糖尿病など)の特徴とリハビリテーション *代表的な内部機能障害に対するリハビリテーションについてお話をします 予習:内部機能障害のリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに代表的な内部機能障害のリハビリテーションを復習する
	8.	障害別リハビリテーション4:地域における対象者の特徴とリハビリテーション *訪問リハビリテーションを代表とした地域リハビリテーションについてお話をします 予習:地域におけるリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに訪問リハビリテーションを代表とする地域リハビリテーションについて復習する
	9.	障害別リハビリテーション5:発達障害の特徴とリハビリテーション *代表的な発達障害に対するリハビリテーションについてお話をします 予習:発達障害に対するリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとに代表的な発達障害に対するリハビリテーションについて復習する
	10.	障害別リハビリテーション6:がんのリハビリテーション *がんのリハビリテーションについてお話しします。 予習:がんのリハビリテーションについて調べる 復習:配布資料と授業をもとにがんに対するリハビリテーションについて復習する
	11.	リハビリテーションのなかの理学療法、作業療法、言語聴覚療法: *理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が行う具体的なリハビリテーション内容についてお話しします 予習:理学療法、作業療法、言語聴覚療法の具体的な内容について調べる 復習:配布資料と授業をもとに理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が行う具体的なリハビリテーション内容を学習する
	12.	義肢・装具:義肢・装具の種類、各切断の特徴 *リハビリテーションに必要な義肢・装具について具体的な例についてお話しします 予習:義肢・装具について調べる 復習:配布資料と授業をもとに義肢・装具の具体的な内容を学習する
	13.	定期試験 *第1～14回目に配布したプリント、講義を復習してください
	14.	総括とテストのフィードバック *テストのフィードバックと質疑応答を行います
留意事項	<p>・必ず出席してください。規定の出席不足は成績をつけられません。</p> <p>・授業中の私語・飲食は他の学生の迷惑になるので禁じる。</p> <p>・講義中に事例を通して考えたり、体験することが多いので積極的な参加を期待する。</p> <p>(事例の画像や動画は患者などの善意によるものであることを自覚すること)</p>	

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
4.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
5.	書籍名		
	著者		
	出版社	ISBN(13桁)	
	その他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	4.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
	5.	書籍名	
著者			
出版社		ISBN(13桁)	
参考図書に関する履修			

	学生への連絡事項		
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
参考URL	webサイト名 URL		
	1. 参考URLに関する履修学生への連絡事項		
	webサイト名 URL		
	2. 参考URLに関する履修学生への連絡事項		
	webサイト名 URL		
	3. 参考URLに関する履修学生への連絡事項		
	webサイト名 URL		
	4. 参考URLに関する履修学生への連絡事項		
	webサイト名 URL		
	5. 参考URLに関する履修学生への連絡事項		
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	実践的教育を行う授業科目の種別		対象
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)		-
	授業内容との関連性		
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		-
	授業内容との関連性		
	c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的		-

備考	

年度	2023
講義名	社会福祉法制論
担当教員	益田 幸辰
授業形態	講義
授業の実施形態	対面（オンライン併用。対面実施回が半数以上）／Face-to-Face (combined with Online: 50% or more of the classes are Face-to-Face)
使用言語	日本語

授業概要	社会福祉法制に含まれるのは、まず憲法や社会福祉法などであるが、これ他に社会保障制度に内包されている医療保険、介護保険、年金保険、労災保険などに関する法制度であると考えられる。本講義では、これらの諸法律が福祉の援助・支援という視点から、どのような関係性を有しているのかという点について具体的に考えていくことにしたい。また、海外の社会福祉の制度についても、検討することにした。授業の形式としては、特定の教科書は用いず、毎回プリントを配布して、それをもとに講義をおこなう。なお随時リアクションペーパーの提出を求めることも考えている。
------	---

知識・専門性の到達目標	「人権宣言」や各種条約、および日本国憲法を最高法規として規定された社会福祉の法制度とソーシャルワークとの関係が理解できる。 【教養・基礎学力】
-------------	--

関心・態度・人格の到達目標	
---------------	--

思考・判断の到達目標	
------------	--

実践的スキル・表現の到達目標	
----------------	--

「響学スパイラル」取り組み方法	
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業形態	対象
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	-
	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	○
	E: グループワーク	-
	F: 発表 (プレゼンテーション)	-
	G: 実習、フィールドワーク	-
	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	-
	J: 講義のみ	○
	K: その他	-

授業における「ICTの活用」について	授業形態	対象
	A: ノートPC必携	-
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
	C: レポート課題等のオンライン提出	○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power), Google Classroom, Teams等)	-
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning, edX, Coursera, JMOOC等のOpen Educational Resources)	-
	F: Zoom, Google Meet等のミーティングツールの活用	○
	G: その他	-

予習 (事前学修)	各授業 [平均120]分 講義前にシラバスにある内容について、調べてノートにまとめる
-----------	--

復習 (事後学修)	各授業 [平均120]分 講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。
-----------	--

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出 (レポート)	学期末レポート	60%
小テスト	リアクションペーパー	40%
試験		-%
実習・学外学修活動		-%
その他		-%

授業回	内容
-----	----

授業計画	1.	[タイトル]社会福祉法制を考える意義と視点について [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]社会福祉法制を考える意義と視点について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	2.	[タイトル]社会福祉法制の枠組みについて [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]社会福祉法制の枠組みについて、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	3.	[タイトル]社会福祉法制の成立の経緯① [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]社会福祉法制の成立の経緯について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	4.	[タイトル]社会福祉法制の成立の経緯② [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]社会福祉法制の成立の経緯について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点 ノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	考えたこと、疑問点を
	5.	[タイトル]社会福祉法制一貧困・高齢世帯などにおける援助・支援との関係① [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]貧困・高齢世帯などにおける社会福祉法制との関係性について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	6.	[タイトル]社会福祉法制一貧困・高齢世帯などにおける援助・支援との関係性② [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]貧困・高齢世帯などにおける社会福祉法制との関係性について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	7.	[タイトル]社会福祉法制一母子家庭における援助・支援との関係性① [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]母子家庭の現状と社会福祉法制との関係性について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	8.	[タイトル]社会福祉法制一母子家庭における援助・支援との関係性② [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]母子家庭の現状と社会福祉法制との関係性について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	9.	[タイトル]社会福祉法制一貧困・高齢・母子家庭における年金保険の現状と関係性① [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]貧困・高齢・母子家庭と年金保険の関係性について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	10.	[タイトル]社会福祉法制一貧困・高齢・母子世帯における年金保険の現状と関係性② [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]貧困・高齢・母子家庭と年金保険の関係性について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	11.	[タイトル]社会福祉法制一貧困・高齢・母子世帯における医療保険の現状と関係性 [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]貧困・高齢・母子家庭と医療保険の関係性について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	12.	[タイトル]社会福祉法制一貧困・高齢・母子世帯における労働保険の現状と関係性 [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]貧困・高齢・母子家庭と労働保険との関係性について、調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	13.	[タイトル]海外の社会福祉制度について①(アメリカやイギリス) [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]海外の社会福祉制度のうち、アメリカやイギリスを調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
	14.	[タイトル]海外の社会福祉制度について②(EU諸国) [教科書のページ]プリントを配布します [予習(事前の準備)]海外の社会福祉制度のうち、EU諸国を調べてノートにまとめる(2時間) [復習(事後の展開)]講義ノートとプリントを復習し、講義内容を要約し、講義から学んだ点、考えたこと、疑問点をノートにまとめ、質問を用意する。(2時間)	
留意事項			

教科書 (購入必要)	1.	書籍名		
		著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
		この他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
	2.	書籍名		
		著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
		この他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
	3.	書籍名		
		著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
		この他、教科書に関する履修学生への連絡事項		
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)		
4.	書籍名			
	著者			
	出版社	ISBN(13桁)		
	この他、教科書に関する履修学生への連絡事項			
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)			
5.	書籍名			
	著者			
	出版社	ISBN(13桁)		
	この他、教科書に関する履修学生への連絡事項			
	紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)			
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	社会福祉のあゆみ	
		著者	金子光一	
		出版社	有斐閣	ISBN(13桁) 9784641122703
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	福祉の成立の経緯や理念を考える上では参考になると思います。	
	2.	書籍名	世界の社会福祉年鑑	
		著者	仲村優一, 阿部志郎, 一番ヶ瀬康子編集代表	
		出版社	旬報社	ISBN(13桁) 9784845116706
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	図書館の請求番号はR369.059となっています。	
	3.	書籍名		
		著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
		参考図書に関する履修学生への連絡事項		
	4.	書籍名		
		著者		
		出版社	ISBN(13桁)	
参考図書に関する履修学生への連絡事項				
5.	書籍名			
	著者			
	出版社	ISBN(13桁)		
	参考図書に関する履修			

	学生への連絡事項			
<p>その他 (配布教材等により購入不要)</p>	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項	毎回の授業時に資料を配布するため、教科書を購入する必要はありません。		
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項			
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項			
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項			
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項			
<p>参考URL</p>	1. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項			
	2. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項			
	3. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項			
	4. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項			
	5. webサイト名 URL 参考URLに関する履修学生への連絡事項			
<p>実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)</p>	<p>実践的教育を行う授業科目の種別</p>		対象	
	<p>a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等)</p>		-	
	<p>授業内容との関連性</p>			
	<p>b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等</p>		-	
	<p>授業内容との関連性</p>			
	<p>c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</p>		-	
	<p>授業内容との関連性</p>			

備考	

年度	2023
講義名	社会福祉発達史
担当教員	野口 友紀子
授業形態	講義
授業の実施形態	対面（オンライン併用。対面実施回が半数以上）／Face-to-Face (combined with Online: 50% or more of the classes are Face-to-Face)
使用言語	日本語

授業概要	この授業の目的は「社会福祉とは何か」を歴史を通して学ぶことです。今回は「まなざし」という視点で、明治期から第二次世界大戦前までの主に日本の「福祉っぽいもの」の歴史をたどります。講義に加えて、受講生にも参加してもらいながら授業を進めます。これまで社会福祉の歴史のテキストを手にとって、難しそう、分かりにくい、つらいと感じていた人におすすめの授業です。この講義では、社会福祉という実践的な学問に歴史研究が必要であると感じてもらふことを最終的な到達目標としています。
------	--

知識・専門性の到達目標	日本と先進国を中心とした海外の社会福祉の発達史を理解する。【教養・基礎学力】
関心・態度・人格の到達目標	
思考・判断の到達目標	
実践的スキル・表現の到達目標	

「響学スパイラル」取り組み方法	問う：現在の社会福祉の形成過程に関心を寄せる。 考動する：講義やテキストで学んだことを深めるために文献にあたる。 カタチにする：特に関心のある領域を深く掘り下げ、レポートを作成する。 見つめ直す：レポートを踏まえて、十分に掘り下げられなかったところを補足する。
-----------------	---

授業形態	対象
A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり	-
B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし	-
C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	-
D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)	-
E: グループワーク	-
F: 発表 (プレゼンテーション)	○
G: 実習、フィールドワーク	-
H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	○
I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)	○
J: 講義のみ	-
K: その他	-

授業形態	対象
A: ノートPC必携	○
B: 講義資料や授業教材のオンライン配信	○
C: レポート課題等のオンライン提出	○
D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power), Google Classroom, Teams等)	○
E: オンラインメディアの活用 (e-Learning, edX, Coursera, JMOOC等のOpen Educational Resources)	-
F: Zoom, Google Meet等のミーティングツールの活用	○
G: その他	-

各授業	事前に提示したことをやってくる。
[平均120]分	

各授業	講義内容全体を復習しておくこと。
[平均120]分	

評価項目	評価項目の詳細内容	割合
課題提出 (レポート)	まとめレポート	50%
小テスト		-
試験		-
実習・学外学修活動		-
その他	発表内容と発表時のスライドの提出	50%

授業回	内容
	イントロダクション

授業計画	1.	授業概要、授業計画、授業評価の説明。 テーマ:「まなざし」の変化からみる歴史とは？ 予習:テキストの目次に目を通しておくこと。 復習:講義内容全体を復習しておくこと。(2時間)
	2.	日本の社会福祉の歴史1 テーマ:自助へのまなざし・下層社会へのまなざし 予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習:関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	3.	日本の社会福祉の歴史2 テーマ:普通の貧困者の発見・工場で働く人びとへのまなざし・感化の再編 予習:次回取り上げる時代について、調べておくこと。(2時間) 復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	4.	日本の社会福祉の歴史3 テーマ:・貧困調査というまなざし・防貧対策の実施 予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	5.	日本の社会福祉の歴史4 テーマ:農村へのまなざし・戦時体制下でのまなざし 予習:次回取り上げる時代について、調べておくこと。(2時間) 復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	6.	日本の社会福祉の歴史5 テーマ:戦時期の対策・戦後の取り組み 予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	7.	非常事態の社会福祉の歴史1 テーマ:騒擾、自然災害 予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	8.	非常事態の社会福祉の歴史2 テーマ:戦争、疫病 予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間)
	9.	イギリスの社会福祉の歴史 テーマ:17世紀以降のイギリスの社会福祉の歴史。 予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間) 次週のスライドを作成し提出すること。
	10.	ドイツの社会保障の歴史 テーマ:19世紀の社会保険制度の形成。 予習:テキストを読んでおくこと。わからない用語は事前に調べること。(2時間) 復習:講義内容全体を復習しておくこと。関連図書を探し、読んでおくこと。(2時間) 次週のスライドを作成し提出すること。
	11.	時代背景の発表会1 スライド1枚を作成し、発表する。 オンライン
	12.	時代背景の発表会2 スライド1枚を作成し、発表する。 オンライン
	13.	この授業のまとめ テーマ:明治期から第二次世界大戦後の日本の社会福祉の形成過程 予習:これまで学んだことを振り返っておくこと。(2時間) 復習:まとめレポートを書く準備をすること。(2時間)
	14.	この授業のまとめ テーマ:明治期から第二次世界大戦後の日本の社会福祉の形成過程 予習:この授業で学んだことを各自でまとめておく。(2時間) 復習:まとめレポートを書く準備をすること。講義内容全体を復習しておくこと。(2時間)
留意事項		

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	社会福祉のあゆみ
		著者	金子光一
		出版社	有斐閣 ISBN(13桁) 9784641122703
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	4.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	5.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		その他、教科書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	社会福祉発達史キーワード
		著者	古川孝順・金子光一
		出版社	有斐閣 ISBN(13桁) 9784641058897
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	2.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	3.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	4.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	
	5.	書籍名	
		著者	
		出版社	ISBN(13桁)
		参考図書に関する履修学生への連絡事項	
		紀伊國屋書店への連絡事項(非公開)	

<p>その他 (配布教材等により購入不要)</p>	1.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	2.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	3.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	4.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
	5.	配布教材等に関する履修学生への連絡事項		
<p>参考URL</p>	1.	webサイト名		
		URL		
	2.	参考URLに関する履修学生への連絡事項		
		webサイト名		
	3.	URL		
参考URLに関する履修学生への連絡事項				
4.	webサイト名			
	URL			
5.	参考URLに関する履修学生への連絡事項			
	webサイト名			
		URL		
		参考URLに関する履修学生への連絡事項		
<p>実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)</p>	<p>実践的教育を行う授業科目の種別</p>		<p>対象</p>	
	<p>a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の实務経験(経歴・資格等)</p>		-	
	<p>授業内容との関連性</p>			
	<p>b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等</p>		-	
	<p>授業内容との関連性</p>			
	<p>c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</p>		-	
	<p>授業内容との関連性</p>			

備考

Teamsによる授業連絡、レジュメ提出、資料配信、学生間交流。

年度	2023
講義名	犯罪・非行心理学
担当教員	大江 由香
授業形態	講義
授業の実施形態	対面（オンライン併用。対面実施回が半数以上）／Face-to-Face (combined with Online: 50% or more of the classes are Face-to-Face)
使用言語	日本語

授業概要	果たして私達は、犯罪者や非行少年を正しく理解できているのだろうか。本講では、犯罪心理学の基礎を学び、犯罪・非行を多角的な視点から捉えながら、偏見のない眼差しで犯罪者や非行少年を理解する訓練を行うとともに、その立ち直りに向けた効果的な支援方法について議論する。
知識・専門性の到達目標	犯罪・非行心理学に関する理論や支援方法を理解し、ソーシャルワーカーとして必要な犯罪・非行心理学の実践的知識を他者に説明できる。【専門能力】
関心・態度・人格の到達目標	子どもをめぐる生物学的、心理学的、社会的要因を多角的かつ包括的視点から犯罪・非行を捉え、その心理学的意味と非行少年の心理特性を学び、非行少年の立ち直りへの共感的理解に基づいた支援について検討できる。【他者理解力】
思考・判断の到達目標	
実践的スキル・表現の到達目標	

「響学スパイラル」取り組み方法	本講では、自分自身の色眼鏡を理解すること、他者の考え方を理解することを基本に、犯罪や非行について自ら考え、多角的な視点を踏まえながら筋道を立てて分析し、言葉で表現することを通して、響学スパイラルを実現します。
-----------------	--

授業における「アクティブな知」の要素	授業形態		対象
	A: 課題解決型学習 (PBL) 企業、自治体等との連携あり		
	B: 課題解決型学習 (PBL) 連携なし		○
	C: 反転授業 (知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
	D: 討議 (ディスカッション、ディベート等)		○
	E: グループワーク		
	F: 発表 (プレゼンテーション)		
	G: 実習、フィールドワーク		
	H: 双方向授業 (ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)		○
	I: 双方向授業 (ICT活用あり: クリッカー、タブレット、スマートフォン等)		○
	J: 講義のみ		
	K: その他		

授業における「ICTの活用」について	授業形態		対象
	A: ノートPC必携		○
	B: 講義資料や授業教材のオンライン配信		○
	C: レポート課題等のオンライン提出		○
	D: 質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用 (学修支援システム (Course Power), Google Classroom, Teams等)		
	E: オンラインメディアの活用 (e-Learning, edX, Coursera, JMOOC等のOpen Educational Resources)		○
	F: Zoom, Google Meet等のミーティングツールの活用		
	G: その他		

予習 (事前学修)	各授業	テキストの授業内容に対応する章を読んでおく。犯罪・非行に関する報道や統計資料を調べる。
	[120]分	

復習 (事後学修)	各授業	授業で取り上げた内容について復習し、知識を定着させるために、ミニレポートを作成する。
	[120]分	

成績評価	評価項目	評価項目の詳細内容	割合
	課題提出 (レポート)	毎回授業終了時にミニレポートを提出する。	70 %
	小テスト		0 %
	試験	試験に代わってレポートを提出する。	30 %
	実習・学外学修活動		0 %
	その他		0 %

授業回	内容
-----	----

授業計画

1.	<p>[タイトル] オリエンテーションーなぜ犯罪・非行心理学を学ぶのか？</p> <p>[予習(120分)] 自分が犯罪・非行心理学をなぜ学ぶのかを考えておく。</p> <p>[復習(120分)] 授業のワークの意味と自分の先入観・偏見について考察する。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
2.	<p>[タイトル] 犯罪とは何か？非行とは何か？</p> <p>[予習(120分)] 違法と合法の境界線は何か、自分なりに考えておく。</p> <p>[復習(120分)] 授業で取り上げた犯罪・非行の定義と刑事司法の手続きについて復習し、知識を定着させる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
3.	<p>[タイトル] 犯罪・非行は個人の問題？-生物学的、心理学的な理論と代表的な個別的要因(知能、サイコパシーなどの人格)</p> <p>[予習(120分)] 犯罪・非行に関する報道を調べ、メディアが犯罪・非行の原因を何に帰属させることが多いのかを知る。</p> <p>[復習(120分)] 授業で取り上げた生物学的、心理学的な理論と個別的要因について振り返り、知識を定着させる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
4.	<p>[タイトル] 犯罪・非行の個別的要因(発達障害、精神障害)と責任能力</p> <p>[予習(120分)] テキスト<第4講>及び<第9講><第11講>を読んでおく。</p> <p>[復習(120分)] 授業で取り上げた個別的要因について振り返り、知識を定着させる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
5.	<p>[タイトル] 犯罪・非行は環境の問題？-社会学的理論</p> <p>[予習(120分)] テキスト<第3講>を読んでおく。</p> <p>[復習(120分)] 授業で取り上げた社会学的な理論について振り返り、知識を定着させる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
6.	<p>[タイトル] 犯罪・非行の環境要因(家族)</p> <p>[予習(120分)] テキスト<第6講>を読んでおく。</p> <p>[復習(120分)] 家族に対する介入方法について調べ、ノートにまとめる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
7.	<p>[タイトル] 犯罪・非行の環境要因(虐待、いじめなどの被害体験)</p> <p>[予習(120分)] 虐待が子どもに与える影響について調べる。</p> <p>[復習(120分)] 子ども虐待の現状について調べる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
8.	<p>[タイトル] 犯罪・非行の環境要因とバイオ・サイコ・ソーシャルモデル</p> <p>[予習(120分)] テキスト<第3講>を読んでおく。</p> <p>[復習(120分)] 授業で取り上げた環境要因とバイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて振り返り、知識を定着させる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
9.	<p>[タイトル] 非行少年は「小さな犯罪者」か？-非行と発達段階</p> <p>[予習(120分)] 少年法の改正について調べ、非行少年の厳罰化に対する自分の意見をまとめておく。</p> <p>[復習(120分)] 授業で取り上げた社会心理学的未熟さが非行に与える影響について振り返り、知識を定着させる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
10.	<p>[タイトル] 様々な犯罪・非行の心理-殺人、暴力</p> <p>[予習(120分)] テキスト<第3講>及び<第5講><第11講>を読んでおく。</p> <p>[復習(120分)] 授業で学んだ殺人犯や暴力犯の心理に関する知識を使って、報道された事件を分析してみる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
11.	<p>[タイトル] 様々な犯罪・非行の心理-放火、性犯罪</p> <p>[予習(120分)] テキスト<第5講>及び<第8講>を読んでおく。</p> <p>[復習(120分)] 授業で学んだ放火犯、性犯の心理に関する知識を使って、報道された事件を分析してみる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
12.	<p>[タイトル] 様々な犯罪・非行の心理-薬物乱用、窃盗</p> <p>[予習(120分)] テキスト<第5講>及び<第10講>を読んでおく。</p> <p>[復習(120分)] 授業で学んだ薬物犯、窃盗犯の心理に関する知識を使って、報道された殺人事件を分析してみる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
13.	<p>[タイトル] 犯罪者処遇の動向-犯罪者処遇理論・福祉との連携</p> <p>[予習(120分)] 監獄法から改正された犯罪者処遇法について調べる。</p> <p>[復習(120分)] 犯罪者・非行少年の立ち直りに福祉がどのように貢献できるかについて考察し、自分なりの意見をまとめる。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>
14.	<p>[タイトル] 被害者のケアと犯罪者・非行少年の更生の両立は可能か？</p> <p>[予習(120分)] テキスト<第12講><第13講>を読んでおく。</p> <p>[復習(120分)] 被害者の心理について復習する。被害者のケアと犯罪者・非行少年の更生の両立可能性について整理する。</p> <p>[課題] 授業で学んだこと及び授業の感想をまとめたミニレポートの作成・提出</p> <p>[実施形態] 対面(オンラインに変更する場合は別途指示)</p>

留意事項

授業には、報道されている実際の事例を使って心理分析等を行う内容や、家庭環境などについて考える内容が含まれます。中には前述した内容に触れることをつらく感じる人もいることから、授業では、そうした人が無理なく受講できるよう配慮します。

教科書 (購入必要)	1.	書籍名	『わかりやすい犯罪心理学』		
		著者	安齋順子, 小島秀吾編著		
		出版社	文化書房博文社	ISBN(13桁)	978-4830111884
	2.	書籍名			
		著者			
		出版社		ISBN(13桁)	
	3.	書籍名			
		著者			
		出版社		ISBN(13桁)	
	4.	書籍名			
		著者			
		出版社		ISBN(13桁)	
	5.	書籍名			
		著者			
		出版社		ISBN(13桁)	
参考図書 (任意購入)	1.	書籍名	『司法・犯罪心理学(ライブラリ心理学の杜 15)』		
		著者	森丈弓, 荒井崇史, 嶋田美和, 大江由香, 杉浦希, 角田亮		
	2.	書籍名	『現代社会とメンタルヘルス』		
		著者	中谷陽二, 斎藤環, 森田展彰, 小西聖子編著		
	3.	書籍名			
		著者			
	4.	書籍名			
		著者			
	5.	書籍名			
		著者			

	学生への連絡事項													
その他 (配布教材等により購入不要)	1. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項													
	2. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項													
	3. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項													
	4. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項													
	5. 配布教材等に関する履修学生への連絡事項													
参考URL	webサイト名 URL 1. 参考URLに関する履修学生への連絡事項													
	webサイト名 URL 2. 参考URLに関する履修学生への連絡事項													
	webサイト名 URL 3. 参考URLに関する履修学生への連絡事項													
	webサイト名 URL 4. 参考URLに関する履修学生への連絡事項													
	webサイト名 URL 5. 参考URLに関する履修学生への連絡事項													
実務経験のある教員等による授業科目 (実践的教育を行う授業科目)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実践的教育を行う授業科目の種別</th> <th>対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の実務経験(経歴・資格等) 2005年から現在まで刑務所や少年鑑別所などの矯正施設の心理技官として、調査、指導、研究業務などに携わっている。公認心理師。臨床心理士。博士(学術)。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業内容との関連性 犯罪及び非行臨床において、犯罪心理学を実践している。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業内容との関連性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	実践的教育を行う授業科目の種別	対象	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の 実務経験(経歴・資格等) 2005年から現在まで刑務所や少年鑑別所などの矯正施設の心理技官として、調査、指導、研究業務などに携わっている。公認心理師。臨床心理士。博士(学術)。		授業内容との関連性 犯罪及び非行臨床において、犯罪心理学を実践している。		b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等		授業内容との関連性		c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的		
	実践的教育を行う授業科目の種別	対象												
	a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目 担当教員の 実務経験(経歴・資格等) 2005年から現在まで刑務所や少年鑑別所などの矯正施設の心理技官として、調査、指導、研究業務などに携わっている。公認心理師。臨床心理士。博士(学術)。													
	授業内容との関連性 犯罪及び非行臨床において、犯罪心理学を実践している。													
	b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目 学外講師の経歴・資格等													
授業内容との関連性														
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目 実習先・実習の目的														

備考	